とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	660-0282
施設名	諏訪保育園
施設所在地	八王子市諏訪町５番地
法人名	社会福祉法人相友会

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

「これがほしい」乳幼児の欲求から始まる十人十色の探究活動

＜テーマの設定理由＞ ・乳幼児の欲求の大切さと探究活動を結びつけ、安心して表現できる環境の定着のため。

・多様な色に触れる機会や環境を意識し、感じたこと考えたことを表現したくなるような環境を作るため。

・子どもたちの個性や育ち、探究活動は十人十色であること、全ての人がひとりの人として尊重されること（人権意識）を考えるきっかけとするため。

（園の特色や子どもの興味関心）

「自分が好き」「人が好き」「自然が好き」の３つの好きを育てる、子ども主体の選択性保育を行なっている。これまでにも作ってあそぼうやアトリエを中心とした制作活動を行なってきた。周囲との対話を通して自分の表現をする姿は、子どもの世界を広げる探究活動そのものであり、「あれが欲しい」（欲求）は、イメージを持った子どもが探究活動を始めるスタートの言葉だと考えている。

２．活動スケジュール

◎週に１回講師（永濱茜氏）

◎毎月２回の作ってあそぼう（小市亮二氏）

5月：職員研修（永濱茜氏）

8月：職員研修（永濱茜氏）

12月：古楽コンサートと研修（多様な表現を知り、子どもの多様な姿を考える）（ミンネの部屋：広瀬美句氏）

３月：古楽コンサート（ミンネの部屋）、職員研修（永濱茜氏）

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
◎アトリエや表現活動中心とした物的環境：造形表現活動の絵の具、クレヨン、紙、筆やローラー、紙粘土、ストッカー、制作用テーブル等
◎様々な素材や色、表現、人物（保育者や講師）と出会える人的環境
◎園庭、第二園庭や神社周辺などの豊かな自然環境

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

「これが欲しい」「やってみたい」といった乳幼児の欲求を出発点に、一人ひとりの興味や関心に応じた探究活動を展開し、色・音・紙や箱などの材料等、子どもが自ら関わることで遊びが展開され、それぞれの表現や発見が生まれる。保育者はそのおしゃべりや表現を丁寧に受けとめ、環境を整えながら、子どもたちの主体的な関わりを支えていく十人十色の探究活動である。

【具体的な内容】「作ってあそぼう」「絵の具あそび」「色あそび」「ダンボールあそび」「木材」「紙工作あそび」「土粘土あそび」「Tシャツづくり」「ゆびえのぐであそぼう」「くれよんバイキング」「第一回コロコロオリンピック」「第二回コロコロオリンピック」「手作りカメラで撮影」「水族館プロジェクト」「新聞づくり」「チョコづくり」「大きな紙におしゃべりお絵描き」「さわやかずし」「植木鉢づくり」「古楽コンサート」等

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

年長組の▪ さんは、「すいかには黒、メロンには薄い色が必要なんだよ」と前回描いたフルーツを完成させるために新しい色が必要なことを教えてくれました。保育者がアクリル絵の具を混ぜて色を作って渡すと「うーん。ちょっと違う。夜になった時、暗い色だよ」と話し、墨を混ぜて作った色を渡すとTシャツにちょんと筆を置いて色を確かめ、「うん。この色」と納得してスイカを描いていました。メロンの方は、作って渡した白よりも黄緑の方が良かったようで、自分で描きたいものと色のイメージを持って描いていました。（9月27日：Tシャツづくり）

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

それぞれが持っている生活体験を大切にして、普段から自分で好きな遊びをすること、興味をもったり、ひらめいたことが否定されない信頼関係が、協働の活動に発展していった。個々の遊びをいいねだけで終わらせずに、イメージを膨らませていけるように保育者も環境を作っていくことで、子どもたちの遊びがつながったり、ひろがったり、深まったりして、発展していった。この姿が乳幼児の探究活動であると感じた。乳幼児の欲求の先には、子どもたちが自ら創り出す姿があった。